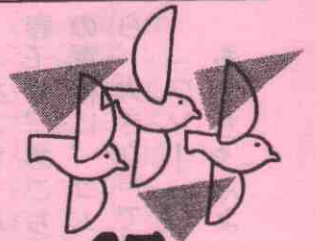


平和特集



森のひろば

27号



2003年 8月発行 宇佐市民図書館

心をなめて
地雷ではなく花をください

柳瀬房子

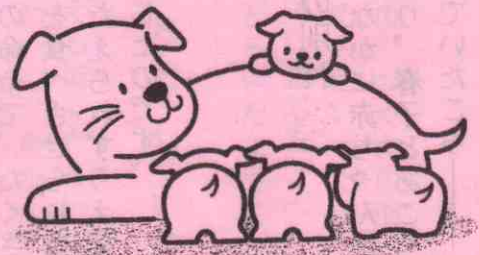
ボクはアジマール。十二さい。
弟といっしょにおつかいに
行ったとき、いつもの道で
弟が地雷をふみ大けがをした。
5日後に死んでしまったよ。
ボクも左足がふきとばされた
んだ。
なにも悪いことなんかしてな
いのに、弟はあんなに苦し
んで：
だれかおしえて なぜなの？
ボクたちは なぜこんな目に
あわなくちやいけないの？

アフガニスタンという国では、地面にたく
さん爆弾がうめられていて、毎日多くの人
たちが死んでいます。まだ戦争はなくなっ
ていないのです。

みなさんは戦争で、人間だけでなく動物たちもたくさん死んで
しまったことをしていますか？
人が戦争をはじめると、なんの
関係もない動物たちまで殺され
てしまいます。

次のおはなしは、戦争で殺され
てしまう犬を、守ろうとした女の子
のお話です。

みなさんは、これを読んでどう思いましたか？





『マアをかえしてください』

わしおとしこ

○あこちゃん和妈妈

春子とあこちゃんは大の仲良し。二人とも九歳です。

二人のうちは東京の下町。

一九四四年(昭和十九年)の春。

太平洋戦争がはじまってから3年。アメリカの飛行機が日本までやってきて、ばくだんをおとす空襲をおとすなたちは、心配していました。でも、子どもたちは自動車などほとんど通らない道路でよく遊びました。

「あこちゃん、あそびましょ」

春子は、あこちゃんのうちのかどの電柱に、ゴムひもをむすびながら、大きな声で言いました。

「ワン！」

あこちゃんより先に、工場のす

かいらんぼんを読んだあこちゃんのお母さんが

「あのね、マアをあしたの神社につれていかなければならないの。もう、会えなくなるのよ」

「どうして？」

あこちゃんと春子が、いっしょに聞きました。

「犬をかってはいけないうって。戦地につれて行って戦わせたり、毛皮や肉を兵隊さんのためにつかうんだって・・・」

かいらんぼんに書いてあることは、国の命令と同じです。―ぜったいにまもらなければならぬ―と、みんな思っています。

「いや!あこ、いや!」

あこちゃんは、マアのほうへかけだしました。

それから、マアはつれていかれてしまいました。たまたまに、あこちゃんはおいかけていきましました。マアはせまいおりの中におしこめられて、背中の毛がはみだし

みにいた茶色い大きな犬がほえましました。

「マアもあそびましょ」

春子は大好きなマアにもいいました。あこちゃんは足が不自由です。マアはあこちゃんが足を機械ではさんでしまった時、はげしくほえて知らせたそうです。マアはあこちゃんにとって、家族の一人でした。



○戦争と動物たち

けれども、ある日、いつものようにゴムとびをしていると、

「こんな大きな犬をかっていなんて、この非常時に!今は戦争をしている大変なときなのだぞ」と兵隊さんにいわれてしまいました。そのころ非国民といわれること

ていました。

「クーン ワンワン」

あこちゃんのすがたを見ると、さかんにほえはじめました。

「うるせえやつだ。まったく」

そばに立っていた男の人が、ぼうでマアのおなかをつつきました。

「あつ、赤ちゃんが・・・」

春子は思わず、りょう手で顔をおおいました。

その時、あこちゃんが、

「マアをかえしてください。わたしの犬だから、かえしてください」



は、とてもはずかしくて、つらいことでした。戦争に協力しない人や、役に立たない人は、日本人ではないということなのです。

前の年、上野動物園でゾウやライオンがころされました。

「動物園に爆弾がおちて、動物があばれるとあぶない。それにエサもなくなってきた。今は国民ひとりひとりが戦う気もちをもたなければならぬ。動物などかかっていては、いけないのだ」

という国の命令で、たくさん動物が、毒を食べさせられたり、食べ物をあたえられずうえ死にさせられたりしたのでした。

○マアとの別れ

マアのおなかに赤ちゃんがいることがわかり、春子とあこちゃんがよろこんでいたころ――

テントの中の、つくえの前ですわっている男の人にいったのです。声ふるえていました。

男の人はおどろいたように、顔をあげました。

春子もゆうきをだしていいました。

「マアをかえしてください」

口の中がかわいて、声がかすれていました。

「こまったな」

男の人は頭をかきました。するとぼうをもって犬のそばにいた人が、二人のそばにやってきて、

「戦地の兵隊さんのことを思いなさい。犬なんかかってはいられない。この非常時に、犬に食べさせるものなどない。戦争にかつためには、役に立たないものを生かしておくことはできないんだ!」

と、口からツバをとばして大声でいったのです。

8月の特集

戦争・平和



『むらさき花だいこん』大門高子
 『まちんと』 松谷みよ子
 『ぼうさまになったからす』〃
 『おもいだしてくださいあの子どもたちを』 C.B.アルバス
 『番号のいれずみ』
 ジャン・ピエール・ビイトリ
 『やさしい木曾馬』 庄野英二
 『おばけ煙突のうた』早乙女勝元
 『りゅう子の白い旗』新川明

『マリアンナとパルーシャ』 東ちづる
 『せかいいちうつくしいぼくの村』 小林 豊
 『さよならカバくん』早乙女勝元
 『マアを返して下さい』 わしおとしこ
 『象のいない動物園』 斉藤憐
 『かわいそうなぞう』土家由岐雄
 『火の壁をくぐったヤギ』 岩崎京子
 『平和へのかけ橋』 明石康
 『デイゴの花』 桜井信夫
 『おいでおいで』 松谷みよ子
 『地雷ではなく花をください』 葉祥明

(ほかにもたくさんあります)



1	3	5	2	4
4	1	3	5	2
2	4	1	3	5
5	2	4	1	3
3	5	2	4	1

七月号のクイズ
の答え

夏休みも『ほんの森』号は、
 学校や、だんちなどににきているよ！
 みんなきてね♥



うさしみんとしょかん
宇佐市民図書館

〒879-0453 宇佐市大字上田1017-1

でんわ 0978-33-4600

ファックス 0978-33-4679

